

一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会  
第 18 回 (令和 5 年度) 定時総会 議事録

日 時 : 令和 5 年 5 月 29 日 (月) 13 時 30 分～16 時 41 分

会 場 : Zoom によるオンライン

出 席 : 加盟 99 校中 98 校出席、委任状 1 校

定款 第 30 条 (総会の定足数) 会員現在数の過半数から出席あり総会開催

Web 会議システムでの開催であるため、開始に先立ち出席者の音声または意思表示が即時に出席者へ伝わり、出席者が一堂に会すと同等に適時的確な意見表明が互いに行える状態を確認した。

13 時 30 分より定時総会を開始した。また、議案の審議では投票機能もしくはチャット機能にて、意思疎通が行えること確認してから審議を開始した。

1. 開会の辞

坂本理事長より開会挨拶

2. 報告事項

1) 新規加入校および校名変更

坂本理事長より、以下の 3 校の入会申請があり、定款に従い、理事会で申請書類内容を審議し入会が承認の報告がなされた。

文部科学省指定校

〒870-0397

大分県大分市一木 1727

日本文理大学保健医療学部保健医療学科 (定員 50 名)

議決権者 : 教授 長濱純二先生

科目承認校

〒956-8603

新潟県新潟市秋葉区東島 265 番地 1

新潟薬科大学医療技術学部臨床検査学科 (定員 60 名)

議決権者 : 学部長 青木定夫先生

〒879-5593

大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1 丁目 1 番地

大分大学医学部 先進医療科学科 生命健康科学コース (定員 20 名)

議決権者 : 学科長 穴井博文先生

2 校から以下のように、校名変更の報告がなされた。

新	旧
新潟薬科大学附属医療技術専門学校臨床検査技師科	新潟医療技術専門学校臨床検査技師科
大分平松総合医療専門学校臨床検査学科	大分臨床検査技師専門学校臨床検査学科

## 2) 第17回日本臨床検査学教育学会学術大会

第17回日本臨床検査学教育学会学術大会の戸田好信一大会長より、学術大会の準備状況として以下の報告があった。

会 期 : 令和5年8月23日(水)～8月24日(木)  
会 場 : 天理大学 杉之内キャンパス ふるさと会館、2号棟  
〒632-0032 奈良県天理市杉之内町1050  
大会長 : 戸田好信(天理大学医療学部 教授)  
副大会長 : 池主雅臣(新潟大学医学部 教授)  
実行委員長 : 山西八郎(天理大学医療学部 教授)  
副実行委員長 : 和田晋一(神戸学院大学栄養学部 教授)  
事務局 : 小松 方(天理大学医療学部 教授)  
共 催 : 一般社団法人 日本臨床検査学教育協議会  
後 援 : 文部科学省・厚生労働省・一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会・  
一般社団法人 奈良県臨床検査技師会  
演題募集登録期間 : 令和5年4月10日(月)～5月31日(水)  
大会HP : <https://jamtel17.secand.net/index.html>

学会テーマ 「臨床検査学教育・今昔物語～求められる次世代型臨床検査学教育」

### プログラム概要

1日目 8月23日(水) 天理大学 ふるさと会館、2号棟  
10:50- 開会式 第1.2会場  
開会挨拶 理事長 坂本秀生(神戸常盤大学)  
11:00-11:45 基調講演「次世代を担う臨床検査技師(仮)」  
・宮島喜文(日本臨床衛生検査技師会)  
11:45-12:10 学術総会(予定)  
12:15-13:15 ランチョンセミナー(1)  
13:30-15:15 教育シンポジウム「カリキュラム改訂後、今後求められる臨床検査技師教育および卒後教育・資格(仮)」  
・岡田茂治(埼玉県立大学)(予定)  
・小野寺利恵(山陽女子短期大学)  
・三村邦裕(日本臨床検査同学院)  
・増田詩織(近畿大学病院)  
13:30-16:15 同時刻に並行して一般演題(大学院)の予定  
15:30-16:30 特別講演  
穴井隆将(天理大学柔道部監督)  
16:45-18:00 科目別分科会 (分科会開催希望数を準備予定)

2日目 8月24日(木) 天理大学 ふるさと会館、2号棟

8:30-8:55 学術評議員会(予定)

9:00-11:35 一般演題(教員、学部生セッション)

12:00-13:00 ランチョンセミナー(2)(3)

13:00-13:50 教育講演「新カリキュラムにおける認知症教育(予定)」  
浦上克哉(鳥取大学)

13:00-14:15 並行して一般演題(学部生)の予定 第2.3.4.5会場

13:50-15:10 ワークショップ「これからのスマート技師教育について」  
・西山正志(鳥取大学)  
・大栗聖由(香川県立保健医療大学)  
・和田晋一(神戸学院大学)

15:10- 閉会式

15:10-15:30 学生発表優秀者表彰

15:30-15:50 大会長スピーチ  
「臨床検査学教育・今昔物語～求められる次世代型臨床検査学教育」  
戸田好信(天理大学)

閉会挨拶 坂本秀生(神戸常盤大学)

次期大会長挨拶 池主雅臣(新潟大学)

<敬称略>

1日目 学術大会基調講演後に学術総会を開催

1日目 情報交換会(懇親会)は実施しない

2日目 8:30より学術評議員会を開催  
教員・学生合同研修会は実施しない

学生表彰:優秀発表賞をセッションごとに1演題選考する。  
適切な感染対策のもと対面開催とする。COVID-19感染状況によってはWeb開催とする。  
アクセス: <https://jamte17.secand.net/access.html>

事務局:天理大学医療学部臨床検査学科 jamte17@tenriyoro-zu-u.ac.jp

### 3) 学生向けタスク・シフト/シェア厚生労働大臣指定研修

坂本理事長より以下の要点が報告され、ついで日本臨床衛生検査技師会(日臨技)の白石氏より、同会で構築した「学生登録システム」に関する説明があった。

- ① 学生用基礎研修(Web 研修) 視聴システム及び厚生労働省登録システムの構築費として、実技研修まで修了した受講者分の「参加費」として、1名あたり3千円を学校から一括して日臨技へその費用を支払う。(学生個々から日臨技へ支払いは不可)
- ② 複数校で合同開催する場合も、各校が上記システムを利用して実施する。
- ③ 各校で実施する実技研修に関わる費用は講師、実務委員への謝金、施設使用料、消耗品代金等を含め各校の負担となり、実技研修に関わる費用を学生から徴収するか、学校が負担するかは各校の判断。
- ④ 日臨技が保有し各都道府県の技師会が管理する備品等は借用可能な場合、実技研修では無償で利用可能。ただし、送料および破損した際の修理費用は各校の負担。
- ⑤ 修了証の発行も同システムから各学校で行なえ、再発行も可能。

### 4) 臨地実習指導者講習会

坂本理事長より、以下の報告がなされた。

#### ① 令和4(2022)年度ワークショップまで修了状況

2022年	関甲信支部	九州支部	中四国支部	中部圏支部	近畿支部	関甲信支部	首都圏支部	関甲信支部
開催日	5月8日	6月5日	6月12日	9月4日	9月11日	10月30日	11月3日	12月11日
受講人数	60	46	56	48	49	42	36	36
2023年	北日本支部	近畿支部	中部圏支部	中四国支部				
開催日	1月15日	2月12日	2月19日	2月26日				
受講人数	28	46	53	59				
						2022年度合計	修了者合計	
						559人	1057人	

令和5年2月12日より同一施設から複数名のワークショップ受講可能  
1名以上の修了者が在籍している施設数として、953施設が令和4年度に達成

#### ② 令和5(2023)年度 講習会実施予定

開催予定日	担当支部
令和5年4月23日(日)	北日本支部
令和5年5月14日(日)	首都圏支部
令和5年6月4日(日)	中四国支部
令和5年8月27日(日)	九州支部
令和5年9月10日(日)	近畿支部
令和5年10月29日(日)	中部圏支部
令和6年1月21日(日)	関甲信支部

#### ③ 臨地実習指導者在籍確認システムの公表

日臨技の白石氏より、臨地実習指導者在籍確認システムの使用方法について説明があった。

#### ④ 臨地実習指導者講習会受講料

坂本理事長より、臨地実習施設への助成制度は予定通り令和5年度末で終了予定と報告があった。受講料は臨地実習生を受け入れ費用として、学校側が負担すべきとの考えの施設もある。各校から実習委託料を支払っており、要望があった際は委託料から受講料を支払って頂く、もしくは依頼校へ請求あった場合など各校で対応願いたいこと、臨地実習施設が複数校の実習生を受けている場合、各校で均等に負担する等の対応は当該校同士でお願い致したいとの説明があった。

## 5) 令和4年度入学者からの臨地実習

坂本理事長より、令和4年度入学者が臨地実習を3年生時に行う際は令和6(2024)年度、4年生時に行う場合は令和7(2025)年度から新カリキュラムで臨地実習を行うに際し、以下の3点につき周知依頼があった。

### ① 各種書類の様式統一

本会と日臨技で作成した「臨地実習ガイドライン2021」に掲載様式の使用。特に、臨地実習施設の方々が記入される際に使用される様式4, 5, 8, 9, 10, 11, 12などは、学校が異なっても統一様式を臨地実習施設からは求められている。ただし、様式1, 2, 3, 6, 7等で臨地実習施設に所定様式がある場合は除く

臨地実習ガイドライン2021 <https://www.jamt.or.jp/data/2021/08/2021.html>

様式1 臨地実習の委託について

様式2 臨地実習承諾書

様式3 臨床検査技師の臨地実習に関する契約書

様式4 臨地実習出席表

様式5 欠席届・遅刻届・早退届

様式6 個人情報等および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報保護に関する説明文章

様式7 個人情報および医療機関・衛生検査所等の法人機密情報の保護に関する誓約書

様式8 臨地実習評価(臨地実習指導者用)

様式9 個別の学修目標設定

様式10 臨地実習自己評価(実習生用)

様式11 臨地実習終了時の振り返り

様式12 アクシデント・インシデント報告書

### ② 臨地実習に関するFAQの更新

臨地実習ガイドライン2021と共に掲載されている、臨地実習関連FAQの更新

[https://www.jamt.or.jp/asset/g/guidelinefor\\_faq.pdf](https://www.jamt.or.jp/asset/g/guidelinefor_faq.pdf)

必ず実施させる行為の「肺機能検査」(スパイロメトリー)につき、追加掲載

Q. 必ず実施させる行為 生理学的検査「肺機能検査」(スパイロメトリー)とあるが、学生は実際に全て検査項目を実施しなければいけないのですか?

A. 必ずしも努力性肺活量の測定を含めた全てを網羅していただくことまでは想定しておりません。施設によって状況は異なるため、実情に応じて可能な範囲(肺活量のみ等)で行っていただければと存じます。

### ③ 臨地実習前技能修得到達度評価の認定証

- A) 客観的に全国で均一化した臨地実習前技能修得到達度の評価方法を定めるまで、認定証は所属校から発行。
- B) 認定証を携帯できるよう、名刺サイズ(縦55mmX横91mm)の大きさと作成。
- C) A4サイズに縦5列横2行で1枚につき名刺サイズ10枚印刷可能な用紙が市販され、文書作成ソフトウェアの差し込み文書機能を利用して汎用プリンターで印刷可能。
- D) 必須記載事項(文言変更不可)以外の文字サイズや加飾、写真挿入を含めたアレンジは各校で可能。
- E) フォントは認識しやすければ、明朝体・ゴシック体は各校の判断で可能。

## 6) 各種委員会の活動報告

坂本理事長より、令和4年度各種委員会の活動として、以下の報告があった。

### 調査研究委員会

学術委員会の依頼に基づき「令和4年度 臨地実習前の技能修得到達度評価(試行)実施状況調査」を実施した。本調査結果については事務局より3月28日付メール配信にて全会員校に報告済み〔協議会HP(会員校専用)にも掲載〕。

### 国家試験対策委員会

- ① 模擬試験進捗状況：問題作成者決定後の依頼確認、ならびに問題作成中。
- ② 6月下旬に模擬試験受注案内(R4年と同様)
- ③ R5年度より受注受付を10部以上とする。但し新設の大学に於いてはその範囲ではない。既卒生も学校単位での受注受付とする。(個人単位の受注受付はしない。) 模擬試験価格(昨年と同様)：問題1セット(A,B) 本体1,800円+税180円 合計1,980円
- ④ R5年度より問題作成者ごとの編集者を設けず、国家試験対策委員で編集・校正を行う。

模擬試験作成今後の予定

- ～6/6(火)：問題作成
- ～7/31(月)：委員による校正完了
- ～9月下旬：印刷完了、発送

模擬試験発注などの予定

- 6月初めまで：模擬試験受注案内
- 6月下旬頃まで：受注についての各校からの回答
- 10月下旬ごろ：模擬試験代金支払い

### 編集委員会

- ① 「臨床検査学教育」15巻1号(令和5年3月1日発刊：学会特集)  
報告2、学術集会における特別講演等の資料6件、学生優秀発表賞受賞演題6件、編集後記
- ② 「臨床検査教育」15巻2号(令和5年9月1日発刊予定)  
総説1、原著2、報告2、関連学会報告、教育機関紹介、国際交流、書評、編集後記を予定

### 研修委員会

- ① 令和5年度臨時総会 教員研修内容および講師について  
「タスク・シフト関連業務の先行導入事例と病院における臨床検査技師業務の展望(仮称)」  
講師：亀田総合病院 臨床検査部 部長 大塚 喜人先生
- ② 今後の教員研修について  
現在、総会時に合わせて年に2回教員研修(講演)を実施しています。この数年のコロナ禍においては、Web開催により、対面に依らずともオンライン会議システムの利用によって同等の成果を上げるに至っています。研修委員会では「総会時に研修を実施している現状の問題点」と、「総会とは別日程で研修を実施すること」について、Webによる実施を前提として検討した。

#### I 総会時に教員研修を実施する問題点などについて

- A) 昼間の時間帯で参加できない教員がいる。
- B) 学校によっては総会案内が全教員に通知されないことがある。
- C) オンラインによる総会でも1校あたり若干名の教員しか参加できないと思っている。
- D) A-Cに付随して、参加者が限定されてしまうため研修の目的を達していないのでは。
- E) 総会時に実施なら、時間に制約があり現状の50分程度が良い。(総会自体が長時間化)
- F) Eに関連して、細かな内容まで踏み込めない。
- G) 総会時に実施すること自体、慣例的な要素が強いと感じる。(研修実施の目的が不明確。)

## II. 教員研修を別日程で実施することについて

- A) 参加しやすい時間帯での実施が可能。
- B) テーマ・内容によって研修時間を長めに設定することができる。
- C) 定員を設定しない方が良い。(人数制限はなし)
- D) 対象者を明確にして受講しやすい環境を提供することができる。
- E) 最終的にはオンデマンドとしての活用。
- F) 比較的参加しやすい時期(秋期・春期)で年2回の開催を計画。

## III. 今後の検討について(総会とは別日程を想定して)

- A) 開催時期の検討
- B) 開始時間の検討
- C) 案内方法の検討(日臨教HPへの掲載・従来通りの学校代表者宛に通知・個別メールなど)

### ③ 令和5・6年度の委員について

現委員4名が引き続き就任下さるとの内諾をいただいている。  
委員の1名増員を予定している。

## 学会運営委員会

- ① 第18回日本臨床検査学教育学会学術大会  
大会長：池主 雅臣(新潟大学医学部保健学科検査技術科学専攻)  
期日：令和6年8月23日(金)～24日(土)(予定)
- ② 第19回日本臨床検査学教育学会学術大会  
大会長：廣畑 聡(岡山大学医学部保健学科検査技術科学専攻)  
期日：令和7年8月21日(木)～22日(金)
- ③ 第20回日本臨床検査学教育学会学術大会  
開催候補地：関東・中部・甲信越部会(予定)  
期日：令和8年(予定)

## 学術委員会

- ① 令和4年度活動報告  
令和4年度科目別分科会開催(令和4年8月18日)。  
学術委員会を2回開催(第1回令和4年11月14日、第2回令和5年3月31日)
- ② 「臨地実習前技能修得到達度評価」について  
各分科会での検討結果を第1回学術委員会にて情報共有した。  
1月初旬 調査研究委員会と協同で養成校対象に「令和4年度実施状況調査」を行った。  
第2回学術委員会にて調査結果を基に、評価項目、科目履修方法、評価基準を検討した。  
令和5年度実施要項を事務局より養成校に配付(R5年4月21日)
- ③ 令和5年度活動は3回の学術委員会を予定(適宜)
  - A) 令和5年度学術委員会委員名簿作成
  - B) 令和5年度分科会会長・副会長名簿作成
  - C) 令和6年度正式に開始する「臨地実習前技能修得到達度評価」に関する実施要項完成
- ④ 令和4年度分科会会長・副会長の変更

## 7) 役員選考委員会

坂本理事長より役員選考委員会について、以下の報告があった。

- ① 欠員1名、現理事から任期満了に伴う退任5名、計6名について養成校種別、所属地域、男女比を元に選考した。
- ② 現監事1名が任期満了に伴う退任のため、1名について選考した。
- ③ 理事長選挙は以下のように実施した。
  - A) 令和5年2月8日に代表理事選挙に関する案内を会員校宛てにメール送信。

- B) 令和5年3月6～24日立候補受付。この間に議決権者登録の情報を会員校から収集。
- C) 令和5年4月10日に理事長候補者について公示を実施した。
- D) 令和5年4月24日に議決権者宛て電子投票に必要な情報をメールにて送付した。
- E) 令和5年5月8日から11日までの4日間を投票期間として選挙を実施。
- F) 令和5年5月11日に投票締切。投票率は82.8%(99校中の82校から投票)と議決権者3分の2以上を超え、選挙成立。

8) 日臨技支部学会内「中高生進路支援ガイダンス」の共催

坂本理事長より、日本臨床衛生検査技師会支部学会において開催する「中高生進路支援ガイダンス」への共催について、以下で行う予定が報告された。

支部	開催日時 / 会場
北日本	会期：令和5年11月4日(土)～5日(日) 会場：福島県立医科大学保健科学部 福島駅前キャンパス、福島学院大学 福島駅前キャンパス(令和5年1月に会場決定) テーマ：温故創新 “今”の挑戦を“未来”につなぐ
首都圏 関甲信	会期：令和5年11月25日(土)～26日(日) 会場：パシフィコ横浜 アネックスホール テーマ：温故知新 技と知識の伝承・熱い2日間
中部圏	会期：令和5年12月2日(土)～3日(日) 会場：石川県立音楽堂、ホテル金沢 テーマ：イノベーションと多様性 ～サステナブル・ラボラトリー・メディスンを目指す!!～
近畿	会期：令和5年10月21日(土)・22日(日) 会場：和歌山県民文化会館、ホテルアバローム紀の国 テーマ：臨床検査 継承と革新 新時代へ～臨床検査の新しいカタチ～
中四国	会期：令和5年9月16日(土)・17日(日) 会場：愛媛県民文化会館 テーマ：「突破」～社会を支える技術と人間力～
九州	会期：令和5年10月21日(土)・22日(日) 会場：佐賀市文化会館 テーマ：未来への改革～臨床検査のソーシャル・イノベーション～

9) その他

なし

3. 議長、議事録署名人の選出

議長に關谷暁子理事を選出し、議事録署名人は議長より山口聡理事、吉田祥子理事が指名された。

4. 議案審議

審議開始前に議長より、投票機能もしくはチャット機能で意思疎通が行えることの確認がなされた後、16時7分より審議を開始した。



## 議案審議

### 第一号議案 令和4年度事業経過報告

小野川常務理事より以下の報告と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て承認された。

文部科学省、厚生労働省、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連学術団体、臨床検査業関連との連絡・協議を行った。また、改正された臨床検査技師学校養成所指定規則に則り、日本臨床衛生検査技師会と合同で臨地実習指導者育成にむけた臨地実習指導者育成協議会への参加、ならびに実習指導者講習会の運用を昨年度に引き続き継続した。さらに、日本臨床検査学教育学会、編集委員会、研修委員会、学術委員会、国家試験問題検討委員会などの活動を通じて、臨床検査学の啓発と教育問題に関する調査研究を行った。

令和4年4月19日

日本臨床衛生検査技師会との第2回臨地実習指導者育成協議会：Zoom会議

令和4年5月30日

第1回理事会：Zoom会議、第17回定時総会：Zoom会議

令和4年8月8日

第2回理事会：Zoom会議

令和4年8月18日

日本臨床検査学教育学会評議員会：対面（Zoom併用）

令和4年12月12日

第3回理事会：Zoom会議、令和4年度臨時総会・教育講演会：Zoom会議

令和5年1月18日

日本臨床衛生検査技師会との第3回臨地実習指導者育成協議会：Zoom会議

令和5年1月23日

厚生労働省医政局医事課試験免許室と免許登録済み証明書のオンライン発行について：Zoom会議

（その他）

- ・ 会員校の加入開拓：順天堂大学医療科学部臨床検査学科、北里大学薬学部創薬科学科、明治薬科大学薬学部薬学科・生命創薬科学科、静岡県立大学薬学部薬学科・薬科学科の新規加盟
- ・ ホームページへの情報掲載：利益相反関係の情報、理事長選挙関連の情報などを掲載
- ・ 臨地実習指導者講習会の受講状況：順調に臨地実習指導者の配置が進んでいる。
- ・ 学生向けタスク・シフト講習：受講申し込みシステムの構築に向け日臨技と協議を行う。

第二号議案 令和4年度収支決算報告

小野川常務理事より以下の報告と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て承認された。

令和4年度 収支計算書

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

(単位 円)

勘定科目	R4年度予算額	R4年度決算額	差引	備考
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
一般会費収入	6,890,000	7,030,000	140,000	会員校99校、賛助会員1社
雑収入	1,500,000	1,443,484	-56,516	印税、看護協会WJJ手数料、文献著作権料
学術学会関連収入	2,500,000	4,623,600	2,123,600	参加費、寄付金、広告掲載料、学会準備金返金分
模擬試験関連収入	8,500,000	7,725,960	-774,040	模擬試験問題冊子販売収入(3902部) (¥1,800+税¥180=¥1,980)
事業活動収支計	19,390,000	20,823,044	1,433,044	
2. 事業活動支出				
事業費支出	13,818,718	12,385,199	-1,433,519	
教育講演料	100,000	111,370	11,370	学術大会、定時総会、地区部会セミナー講師謝礼及び交通費、総会時講演会等
教育普及活動	4,800,000	4,818,383	18,383	模擬試験問題作成費、印刷、配送料
臨地実習指導者講習	3,018,718	3,018,718	0	臨地実習指導者講習会追加(教材費・講習謝金) ¥1,000,000(昨年度分繰越)
学術大会開催	4,400,000	4,065,478	-334,522	第16回学術大会開催
学会誌出版	1,500,000	371,250	-1,128,750	学会誌電子化編集費(14巻2号、15巻1号次年度繰越)
管理費支出	5,065,000	4,600,797	-464,203	
広告宣伝費	660,000	720,610	60,610	会員専用コンテンツ削除・会員校専用コンテンツ制作¥132,000、Webサイト管理(月額) ¥44,000×12=¥528,000、サーバー費用、ドメイン費用1年分¥60,610
印刷費	0	0	0	協議会名入り封筒印刷、役員名刺印刷等
租税公課	70,000	0	-70,000	法人登記変更費用
接待交際費	50,000	0	-50,000	慶弔費、手土産など
通信費	300,000	136,592	-163,408	協議会用携帯電話使用料、インターネット使用料、郵便切手、宅配便送料
会場費	50,000	100,000	50,000	令和3年度、令和4年度国試問題検討委員会施設使用料
消耗品費	100,000	38,066	-61,934	文具類、コピー用インク、事務用器材等
行事費	230,000	120,000	-110,000	委員会日当
旅費交通費	100,000	51,158	-48,842	理事、委員の交通費・宿泊費
会議費	165,000	145,200	-19,800	Zoom会議契約料
顕彰費	120,000	148,158	28,158	永年精励賞表彰状(22名)、宅急便代
寄付金	0	0	0	
事務局運営管理費	2,600,000	2,560,137	-39,863	事務局人件費(アルバイト2名×12か月+交通費)、事務局賃料等、レンタル倉庫代、印刷代、会議室使用料
雑費	550,000	510,876	-39,124	税理士顧問料、振込手数料、ネットバンキング使用料
法人税等	70,000	70,000	0	東京都法人都民税均等割
事業活動支出計	18,883,718	16,985,996	-1,897,722	
事業活動収支差額	506,282	3,837,048	3,330,766	
II. 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
出資金収入	0	0	0	
受取利息	178	185	7	
財務活動収入計	178	185	7	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	178	185	7	
III. 予備費支出				
当期収支差額	506,460	3,837,233	3,330,773	
前期繰越金	23,730,065	23,730,065	0	
次期繰越金	24,236,525	27,567,298	3,330,773	

第三号議案 令和4年度監査報告

上原監事より以下の報告と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て承認された。

## 監査報告

一般社団法人

日本臨床検査学教育協議会

理事長 坂本 秀生 殿

定款第3章第13条5および会計規程第6章36条の規定に基づき、令和4年度の会計帳簿および事業報告の内容を監査した結果、会計は正確に処理されており、また会務は適正に運営されていることを認めます。

令和5年5月9日

監事

上原 昭浩



監事

齋藤 邦明



第四号議案 令和5-6年度 理事・監事

役員選考委員会の松下委員長より以下の報告と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て承認された。

1. 教育年限に基づく推薦理事の人数

- 1) 4年制の教育施設に所属する理事 15人
- 2) 3年制の教育施設に所属する理事 5人

2. 地区に基づく推薦理事の人数

- 1) 北海道・東北地区 2人
- 2) 関東・中部・甲信越地区 10人
- 3) 近畿・中国・四国地区 6人
- 4) 九州・沖縄地区 2人

令和5-6年度 役員（理事・監事）候補者

連番	学校名	役員候補者氏名	教育年限		地区	備考
			4年	3年		
1	札幌医学技術福祉歯科専門学校	松林 こずえ		○	北海道・東北	留任
2	東北大学	三浦 昌人	○		北海道・東北	新任
3	埼玉医科大学	小野川 傑	○		関東・中部・甲信越	留任
4	昭和医療技術専門学校	山藤 賢		○	関東・中部・甲信越	留任
5	東京工科大学	吉田 祥子	○		関東・中部・甲信越	留任
6	東洋公衆衛生学院	山口 聡		○	関東・中部・甲信越	留任
7	帝京短期大学	井口 文子		○	関東・中部・甲信越	留任
8	北里大学	石井 直仁	○		関東・中部・甲信越	新任
9	新潟大学	富山 智香子	○		関東・中部・甲信越	新任
10	北陸大学	關谷 暁子	○		関東・中部・甲信越	留任
11	藤田医科大学	市野 直浩	○		関東・中部・甲信越	留任
12	四日市看護医療大学	高崎 明彦	○		関東・中部・甲信越	留任
13	京都保健衛生専門学校	中前 雅美		○	近畿・中国・四国	留任
14	大阪大学	三善 英知	○		近畿・中国・四国	留任
15	関西医療大学	大瀧 博文	○		近畿・中国・四国	留任
16	神戸常盤大学	坂本 秀生	○		近畿・中国・四国	留任
17	山口大学	野島 順三	○		近畿・中国・四国	留任
18	香川県立保健医療大学	多田 達史	○		近畿・中国・四国	新任
19	九州大学	勝田 仁	○		九州・沖縄	新任
20	純真学園大学	松田 洋和	○		九州・沖縄	新任
監事	日本医療科学大学	伊藤 昭三	○		関東・中部・甲信越	新任
	長野中央病院	上原 昭浩			関東・中部・甲信越	任期中

※ 理事については5名が任期満了に伴う退任のため、新たに5名を推薦。また令和3-4年度において欠員1名のため、1名推薦。

※ 監事については1名が任期満了に伴い退任のため、新たに1名を推薦。

#### 第五号議案 理事長選挙結果

役員選考委員会の松下委員長より以下の報告と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て、新理事長として坂本秀生氏が承認された。

候補者が坂本秀生氏の1名のみであったことから、役員選考委員会内規13条に従い信任投票となった。選挙期間を令和5年5月8日—11日として電子投票を行い、5月12日の役員選考委員会で開票し、以下の開票結果であった。

投票率：82.8%(99校中の82校から投票) 議決権者3分の2以上を超え選挙成立

有効投票数：82票

信任投票数：80票

不信任投票数：2票

坂本秀生氏が有効投票数の過半数を超えた。

新理事長の坂本秀生氏より、新役員について以下の指名があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て、承認された。

副理事長：三善英知氏、山藤賢氏、市野直浩氏、中前雅美氏

常務理事：小野川傑氏

## 第六号議案 令和5年度事業計画案

小野川常務理事より以下の提案と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て承認された。

文部科学省、厚生労働省、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連学術団体、臨床検査業関連との連絡・協議をする。会員校との意見交換や相談などに対応する。また、日本臨床衛生検査技師会との合同事業である臨地実習指導者講習会の継続と、臨地実習指導者育成協議会に参画することでよりよい臨地実習の環境づくりを目指していく。さらに、臨床検査学の啓発とさらなる教育力向上を目指して、日本臨床検査学教育学会、編集委員会、研修委員会、学術委員会、国家試験対策検討委員会などの活動を通じて調査研究を行う。

令和5年4月10日：令和5-6年度理事長候補者公示

令和5年4月20日：日本臨床衛生検査技師会との第4回臨地実習指導者育成協議会：Zoom会議

令和5年5月8日－11日：令和5-6年度理事長選挙

令和5年5月15日：第1回理事会：Zoom会議

令和5年5月29日：第18回定時総会：Zoom会議、令和5-6年度役員による新体制発足

令和5年5月29日：第2回理事会：Zoom会議

令和5年6月12日：第3回理事会：Zoom会議

令和5年8月7日：学術理事会：Zoom会議

令和5年8月23-24日：第17回日本臨床検査学教育学会学術大会：天理大学  
(23日学術総会、24日学術評議員会)

令和5年12月4日：第4回理事会：Zoom会議

令和5年12月18日：令和5年度臨時総会、教員研修会：Zoom会議

令和6年1月：日本臨床衛生検査技師会との第5回臨地実習指導者育成協議会（予定）

（通年事業）

- ・機関誌「臨床検査学教育」発刊（編集委員会）
- ・加盟校学生向け国家試験模擬試験問題の作成（国家試験対策委員会）
- ・臨地実習指導者講習会の日本臨床衛生検査技師会との合同運営（臨地実習指導者講習会受講終了施設の情報管理などの新規事業を含む）
- ・在校生向けタスク・シフト講習の実施に向けた準備（日臨技と継続協議）

（その他）

- ・「学術会員登録名簿」の管理（各校への配布は行わない）。

第七号議案 令和5年度予算案

小野川常務理事より以下の提案と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て承認された。

令和5年度 予算計算書

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

(単位 円)

勘定科目	R4年度決算額	R5年度予算額	差引	備考
I. 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
一般会費収入	7,030,000	7,030,000	0	会員校99校、賛助会員1社
雑収入	1,443,484	1,500,000	56,516	印税、看護協会Will手数料他
学術学会関連収入	4,623,600	4,800,000	176,400	参加費、寄付金、広告掲載料、学会準備金返金分
模擬試験関連収入	7,725,960	7,722,000	-3,960	模擬試験問題冊子販売収入 3900部の見込み (¥1,800+税¥180=¥1,980)
事業活動収支計	20,823,044	21,052,000	228,956	
2. 事業活動支出				
事業費支出	12,385,199	14,038,718	1,653,519	
教育講演料	111,370	120,000	8,630	学術大会、定時総会、地区部会セミナー講師謝礼及び交通費
教育普及活動	4,818,383	4,500,000	-318,383	模擬試験問題作成費、印刷、配送料 模試作成料、校正料
臨地実習指導者講習	3,018,718	3,018,718		臨地実習指導者講習会運営経費
学術大会開催	4,065,478	4,400,000	334,522	第17回学術大会開催
学会誌出版	371,250	2,000,000	1,628,750	学会誌電子化編集費(15巻1号、15巻2号、16巻1号)
管理費支出	4,600,797	5,135,000	534,203	
広告宣伝費	720,610	650,000	-70,610	Webサイト管理(月額)¥44,000×12=¥528,000、サーバー費用、ドメイン費用1年分¥60,610、ページ名の変更に伴う各種修正¥22,000
印刷費	0	100,000	100,000	協議会名入り封筒印刷、役員名刺印刷等
租税公課	0	75,000		法人登記変更費用
接待交際費	0	50,000	50,000	慶弔費、手土産など
通信費	136,592	150,000	13,408	協議会用携帯電話使用料、インターネット使用料、郵便切手、宅配便送料
会場費	100,000	100,000	0	令和5年度国試問題検討委員会施設使用料他
消耗品費	38,066	100,000	61,934	文具類、コピー用インク、事務用器材等
行事費	120,000	230,000	110,000	各種委員会委員日当、理事長選挙電子投票システム利用経費
旅費交通費	51,158	100,000	48,842	理事、委員の交通費・宿泊費
会議費	145,200	150,000	4,800	Zoom年間契約料
顕彰費	148,158	210,000	61,842	永年精励賞表彰状、送料
寄付金	0	0	0	
事務局運営管理費	2,560,137	2,600,000	39,863	事務局人件費(アルバイト2名×12か月)、事務局賃料等
雑費	510,876	550,000	39,124	税理士顧問料、振込手数料、ネットバンキング手数料
法人税等	70,000	70,000	0	東京都法人住民税均等割
事業活動支出計	16,985,996	19,173,718	2,187,722	
事業活動収支差額	3,837,048	1,878,282	-1,958,766	
II. 財務活動収支の部	0			
1. 財務活動収入	0			
出資金収入	0		0	
受取利息	185	185	0	
財務活動収入計	185	185	0	
2. 財務活動支出	0			
財務活動支出計	0		0	
財務活動収支差額	185	185	0	
III. 予備費支出	0			
当期収支差額	3,837,233	1,878,467	-1,958,766	
前期繰越金	23,730,065	27,567,298	3,837,233	
次期繰越金	27,567,298	29,445,765	1,878,467	

## 第八号議案 科目別分科会会則変更

学術委員会委員長として、高崎理事より以下の提案と説明があり、審議の結果、出席正会員の過半数以上の賛成を得て承認された。

### 生体検査

新	旧
第 5 条 科目別分科会生体検査学に次の役員を置く。 会長 1 名、 <b>副会長(若干名)を役員とし、循環・呼吸・脳神経筋・超音波・他</b> を網羅できるよう構成する。 2 会長並びに副会長は、各科目別分科会において互選とする。 3 会長は、本会を代表し会務を統括する。 <b>4 会長は、学術委員を兼務する。</b> <b>5 副会長は、会長を補佐する。</b>	第 5 条 科目別分科会生体検査学に次の役員を置く。 会長 1 名、 <b>副会長3名の4名を役員とし、それぞれが4部門(循環・呼吸・脳神経筋・超音波)</b> を網羅できるよう構成する。 2 会長並びに副会長は、各科目別分科会において互選とする。 3 会長は、本会を代表し会務を統括する。 4 副会長は、会長を補佐する。
附 則	附 則
1 この会則の改廃は、各科目別分科会の議を経て、協議会総会の承認を必要とする。 2 この会則は、令和3年8月1日から施行する。 <b>附 則 (令和4年12月●日改正)</b> <b>1 この会則は、令和4年12月●日から施行する。</b>	1 この会則の改廃は、各科目別分科会の議を経て、協議会総会の承認を必要とする。 2 この会則は、令和3年8月1日から施行する。

### その他の議案

なし

以上、予定していた報告及び審議事項を終え、Web 会議でも滞りなく進行できたことを議長が確認し、16 時 38 分に終了した。

#### 5. 閉会の辞

坂本理事長より閉会挨拶

令和 5 年 6 月 5 日

代表理事(理事長) 坂本秀生 印

議事録署名人 山口聡 印

議事録署名人 吉田祥子 印